

八幡町自主防災会西支部の概要

2020.4.21

西支部の基本的な考え方

西支部は、新屋嶋、本郷嶋、市場嶋、西赤土嶋区域の住民（約800世帯）の自主的な防災活動により、災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的としています。

西支部は、「自分の身は自分で守る」自助を基本とする。

また災害時は、住民の安否を確認し、助けを呼ぶ情報発信を最優先とする。

平時は、災害についての正確な情報を住民に提供し、危機感を共有するとともに、防災に関する準備、訓練、住民間の不断のコミュニケーションの醸成に努める。

西支部の特徴

西支部は、上記のように、情報発信及び自助に重点を置いています。

地震の場合は、近くの広場に避難する「一時ひなん地」を11箇所決め、それぞれに「一時ひなん地リーダー」（世帯の多い所は、准リーダーを配置）を置いています。

町内会の組単位に、現行の町内会組長とは別に、「防災組長」を設け、被害が出たと感じる地震が発生した場合は、自発的に自分の組の安否を確認し、一時ひなん地リーダー等に報告することとして

います。安否確認をスピードアップするためにタオル掛け訓練を行っています。

豪雨の被害にあいそうな場合は、西支部役員に自主的に連絡いただければ、町民館を開放します。

災害対策については、「災害時対策班」を設けて、救助体制など、災害時の具体策の検討を進めています。

また、「自助支援班」を設けて、家具の固定など、なかなか進まない自助の啓蒙を行っています。

さらに、住民の防災意識の研鑽を目的に、個人を対象に、支部活動への協力や情報を共有する「防災サポーター」を募集していて、役100名が登録しています。

町内会の防災訓練には、安否確認を目的とする防災訓練と、住民の交流促進を目的に炊き出しや体験訓練などのフェスティバルを年1回行っています。